

摩耶ケーブル 景観照明



所在地：兵庫県神戸市灘区箕岡通4丁目2番地
 乗降客数：年間約27万人
 走行距離：965m
 走行時間：約5分
 定員数：52人
 施工主：一般財団法人 神戸すまいまちづくり公社
 工事期間：平成26年10月～平成27年3月

S308

神戸市が「六甲・摩耶活性化プロジェクト」の一環として
 摩耶ケーブルの景観照明工事を実施。LED小形丸形投光器により、
 自然環境を保護しながら、美しい紅葉のトンネルをつくり出しています。

「1000万ドルの夜景」へと続く大正14年 開業のケーブルカー

摩耶ケーブルの開業は大正14年。震災のため平成7年に一時休業しましたが、平成13年に運行を再開し、摩耶ロープウェイと合わせた「まやビューライン」として、神戸市民に愛され続けています。始発の「摩耶ケーブル駅」から終点の「虹の駅」までは965m。最大斜度29°の急勾配を登り切ったその先には摩耶山掬星台があり、日本三大夜景のひとつで「1000万ドルの夜景」と称される神戸の夜景が広がります。今回の景観照明工事は、紅葉のライトアップを目的としたもので、点灯期間は11月頃の約1か月間、点灯時間は17:00～17:40または終電時刻の21:00までとなっています。

発熱量の少ないLED投光器により自然環境を保護しながら美しい景観を創出

照明器具は、自然環境を保護し、かつ景観に与える影響を最小限に抑えるため、虫を誘いにくく、発熱量が少なく、さらに小形で目立たないLED小形丸形投光器（70W形コンパクトメタルハライドランプ器具相当、消費電力39W）を採用。従来のHID器具に比べ、発熱量は53%削減、サイズは約40%のコンパクト化を実現しています。相関色温度は3000K。温かみのある電球色の光が、日本三大夜景を背景に、もみじの紅葉を鮮やかに浮かび上がらせます。

照明の設置エリアは「虹の駅」の手前、ゆるやかなカーブを伴う約105mの範囲で、照射する対象はもみじの樹木に限定。個々のもみじの枝ぶりや、木々の自然な密集具合に合わせて、50台のLED小形丸形投光器を1か所ごとにきめ細かく配置しています。また、ケーブル沿いの樹木だけではなく離れた場所にある樹木にも光を当てることで、立体感を演出し、幻想的な「もみじのトンネル」をつくり出しています。

設置に当たっては、自然環境の保護を徹底し、1本の小枝も伐採することなく、光が木々の間をぬようにして樹木へ届くよう照射方向を調整。さらに、摩耶山掬星台からの1000万ドルの夜景を損なうことのないよう、ルーバーを装着し、樹木のない空間に光が漏れ出ないように緻密な設計を行っています。



「虹の駅」からの景観。もみじのトンネルを抜けて駅に到着するケーブルカー



ケーブルカー車内からの景観。電球色のLED小形丸形投光器による温かみのある光が「虹の駅」手前に幻想的なもみじのトンネルを創出



照射対象をもみじの樹木に限定し1本ごとにきめ細かく設置



眼下に広がる日本三大夜景とともに美しい景観を創出する電球色のLED小形丸形投光器



展望台からの景観を損なわないよう、LED小形丸形投光器はルーバーにより1台ごとに漏れ光をコントロール

主な器具一覧					
設置場所	器具名	形名	台数	備考	
虹の駅周辺	LED小形丸形投光器	LEDS-04801LN-LS9	50台	LED 消費電力:39W(100V)	